

大会テーマ（案）

1 テーマ

「賢治さんの理想郷“イーハトーブ”から本当の幸せを考える ～希望ある未来は図書館とともに～」

2 テーマ設定の趣旨

大和朝廷の時代、東山道の奥にあった辺境の地域は、今では風情豊かに「みちのく」と呼ばれることがあります。その一角を成す岩手県は、郷土を代表する詩人・童話作家 宮沢賢治（1896-1933）の心象世界の中にある「理想郷イーハトーブ」のモチーフと言われています。賢治さんの思想の根底には「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」との考えが流れており、混とんとする現代社会に生きる私たちが、最も人間らしい行為の一つとされる読書やその場を提供する身近な図書館を通じ、希望ある未来に向けて本当の幸せとは何かに思いを巡らすことを大会テーマとしました。

本県は今、5年後までの県民計画の下、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波の経験に基づいて、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる「希望郷いわて」の実現を目指しています。人は誰もが幸せになるために生まれてくるのだと思いますが、生きていく上では乗り越えていかなければならない出来事に遭遇することがあります。そんな時、読書や図書館は、必ずや私たちに生きる力（課題解決のための知識や情報）を与えてくれるはずで

記念講演（案）

大会テーマとの関連性等（水沢V L B I観測所の前身である緯度観測所は、賢治さん自身が何度も足を運んでおり、数々の名著の構想を育んだとされる。）を考慮し、提案した。

タイトル

未定

講師

本間 希樹 氏（ほんま まれき）

経歴

アメリカ合衆国テキサス州生まれ、神奈川県育ち。

平成6年東京大学理学部天文学科卒。平成11年同大学院理学系研究科博士課程修了。同年国立天文台COE研究員。その後、助教、准教授を経て2015年より現在まで、国立天文台教授、水沢V L B I観測所所長を兼務。また現在、総合研究大学院大学及び東京大学大学院の併任教授。専門は電波天文学で、超長基線電波干渉計（V L B I）を用いた銀河系構造やブラックホールの研究を行っている。

主な著書『ヤバい科学者図鑑』、『国立天文台教授が教えるブラックホールってすごいやつ』ほか

